

2009.10.15：平成21年_文教常任委員会（第1号） 本文

○宇野 裕委員 1問だけさせていただきます。

理科教育振興費のことです。何度か理科教育の充実について現場からいろいろな実験の装置を欲しいとか上がってきても、なかなかそれにこたえられなかった時代が続いてきた。今回かなりの予算をつけていただいたことに対して非常にありがたく思うわけですが、この中身をちょっと教えていただきたいのと、こういうハードを整備したと同時に、理科に興味を持てる、子供たちが理科というものはおもしろいと思えるようなソフトのほうの面でどういうことを考えているのか、それをあわせてお尋ねしたいと思います。

○委員長（西田三十五君） 石野課長。

○説明者（石野財務施設課長） 委員のお話にございましたように、大変、この理科教育の備品というものは、そろえたいものはたくさんあると、ただし、全体の中で、教育費だけじゃございませんけども、お金がないよという中で、要望は上げる、あるいはうちのほうで取りまとめをしても、大体このあたりではないかということで、なかなかそろわなかったと。ただし、学習指導要領は変わりますので、これからは理数教育というものを強化していかきゃいけない。そのためには、まず実験とか、現場に出てみて、初めて感動といいますか、そういうものをもらいながらやっていかなきゃいけないということで、文科省のほうでも、今回は通常の年の何年分という予算を財務省からとられましてという言い方は変ですけども、今までですと、1校10年分ぐらいですか、それを受けまして、うちのほうとしても、今回は思い切って、国のほうでそういうことをしてくれるのであればということで出してみなさいということで、県立学校1校当たり100万円、100万円が多いか少ないか、今までは少ないですけども、そういうことをやればいろんな顕微鏡だとか、何か高額的なものも買えますので、1校当たり100万円ということで、国の予算措置におきまして、うちのほうもやらせてもらったところでございます。

まずは備品関係からやっていこうということでございまして、ソフトの面についてはいろんな事業の方法ですとか、そういうものを活用しながらということになっていこうかと思えますけれども、あわせてこれからは理科教育というものが大事だということでございまして、千葉県ではいろいろとそういうので表彰される生徒も出てきたりということもございまして、成果は出てきているということでございまして、頑張っていこうと思えます。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 要望ですけれども、ことしつけたから、もうあとはいいやではなくて、来年度以降もこの理科の設備については、足りないところがあれば、よく目を光らせていただいて、充実していただけるようお願いをいたします。

以上です。

○宇野 裕委員 この条例について、3問程度質問したいと思います。最後、要望もさせていただきたいと思います。

ただいま来年の4月、木下地区にある印旛高校を千葉ニュータウンのほうに移転をするというようなことで、スタートがもう目前という時期のこの時点でお伺いしたいと思います。

この印旛明誠高校の誕生までには、大変地元の皆様方の御苦勞があったものと推察いたします。また、同時に、強い要望もあったというふうに聞いておりますし、関係者の皆様方に大変敬意を表したいというふうに思います。できれば、この場において、これまでの印旛明誠高校の、間もなく誕生する高校の誕生の経緯とか、その辺のところを少し御説明をいただきたいと思います。

○委員長（西田三十五君） 山口課長。

○説明者（山口県立学校改革推進課長） 千葉ニュータウン地区の高校整備、これは千葉ニュータウンの事業が実は昭和44年から始まっております。当初の計画人口が34万人ということで、複数校の整備が計画されていたと——高校のです——ということでございます。昭和58年に白井高校が新設されました。その後、居住人口の伸び悩みとか、財政的な事情等々もございまして、県立高校の新設というものは、長年なかったわけでございます。こうした中で、地元からは高校新設の御要望がございました。平成9年から主なもので8回ということでございます。地元からのこうした要望と、印旛高校同窓会を初めとしました関係者の御理解を経まして、平成16年の5月に再編計画の2期プログラムの中で、老朽化した印旛高校を木下地区からニュータウン地区に移転するという方向を示しました。その後2年間にわたる大規模公共事業等の事前評価を経まして、平成18年3月に2期プログラ

ムの追加決定という形で、22年度の開校が決定されたということでございます。

以上です。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 大体の経緯はわかりました。先ほども申し上げましたとおり、印旛高校といえば、甲子園にも出場して、全国に名をはせているという非常に歴史と伝統のある高校ということで、それが場所と名前が変わって、新しい高校として来年出発するというようなことを今伺いましたけれども、地元の皆様方に改めて申し上げますけれども、非常に葛藤があったと思います。旧印旛高校というんでしょうか。今の高校で学んだOBの方がたくさんいらっしゃるわけですよ。新しいスタートとはいえ、発展的な移転とはいえ、大変苦渋の選択があったんじゃないかなと思います。ただ、前向きに新しい高校をつくるということで、地元の皆様方が大変御苦労なされたということ、この場をおかりして、感謝と敬意を申し上げたいというふうに思います。

それから、2問目の質問であります。この机の上にあるこのパンフレットを今見まして、印旛高校は進路の実現とか、学力向上、部活全力とか、そういう4字の熟語が並んでおりますけれども、この新しい高校、どのような高校を目指しているのか、その辺のところをお伺いできますでしょうか。

○委員長（西田三十五君） 山口課長。

○説明者（山口県立学校改革推進課長） 印旛明誠高校、進学を重視した普通科の単位制高校という形で、地域の特性を最大限に活用した人材育成、これを基本コンセプトにしております。今後の県立高校のあり方の一つを示すパイロットスクールのものを目指していきたいというふうに考えております。

それから、印旛高校、甲子園にも出場した伝統がございます。それを受け継いで、部活動も力を入れたいというふうに考えております。そのように現場のほうも動いております。以上です。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 はい、わかりました。教育長が新しくなられて、千葉県の教育、これからもっと一生懸命やっていこうと、勉強ばかりの子供ではなくて、武道も重視していこうとかといういろいろな御提言がこの間記者会見もございました。新しい千葉県の教育の先頭を切るには、すばらしい高校になっていただきたいというふうに要望いたします。

質問の3点目でありますけれども、進学を重視した単位制高校というふうに今伺っておりますけれども、具体的にどのような内容なのかということと、あわせて設備、施設、そういう整備状況、そういうものの特徴があれば、その点もあわせてお尋ねしたいと思います。

○委員長（西田三十五君） 山口課長。

○説明者（山口県立学校改革推進課長） 単位制の高校というのは、学年制をとらないというようなことでもございまして、みずからの興味、関心、あるいは進路希望に合わせて、多様な選択科目の中から履修科目を選択できるということでもございます。3年間という就業年限はございますが、必要な単位数74単位を取れば卒業できるということでもございます。

こうした単位制の特色を活用しまして、多様な選択科目の設定、あるいは少人数授業、それから一部7時間授業も取り入れます。それから、進学の補習なども実施する予定でもございます。こうした取り組みによりまして、生徒一人一人の個性あるいは能力を伸ばして、進路希望の実現をサポートしていきたいというふうに考えています。

それから、施設の特徴ですか。

（宇野 裕委員、「状況です」と呼ぶ）

○説明者（山口県立学校改革推進課長） はい。今整備が順調に進んでおりまして、11月下旬には現地説明会などを開きまして、来年進学を控えた中学生、あるいは保護者、地域の方々にお披露目をしたいというふうに考えております。

施設の特徴としては、先ほど申した単位制をとっておりますので、選択室がございまして。それから、自習室とか、兼用のラウンジとかを整備いたします。それから、地域に開かれた学校ということで、地域交流スペースなども設けたいと。それから、環境に優しい学校ということで、自然採光あるいは通風にも配慮した設計になっているということでもございます。

以上です。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 最後に、今後の印旛明誠高校の課題というか、最初が大事でありますので、その課題をどのように認識しているのかお伺いします。

○委員長（西田三十五君） 山口課長。

○説明者（山口県立学校改革推進課長） 今まで御説明したとおりなんですが、地域からの強い要望と深い御理解のもとで、今回の移転が実現したということでございます。ですから、いかに地域に愛されて、地域とともに歩む、成長する学校にしていくかというのが大きな課題かと考えております。幸いなことに、ニュータウン地区、最先端の企業だとか、大学がございます。それから、地域の方々の教育に対する理解、関心も非常に高いというふうには伺っています。こうした地域の御協力を得ながら、地域に根差した学校づくりをしていきたいというふうに考えています。

以上です。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ニュータウンそのものは、計画人口を非常に下回っているような状況の中で、この印旛明誠高校がニュータウンの中にできるということは、地域にとっては大変朗報だと思います。この高校が今後核になってニュータウンづくりの牽引力というか、人口を誘導するというか、こんなにすばらしい高校があるんだったら、あそこへ引っ越そうとか、あそこに土地を求めようというような、そういうことも意識して高校づくりをやっていただきたい。そうすることが、これまで苦労なさって、旧印旛高校を移転することを決断した地域の皆様の御期待にこたえることになるんだろうと、私はそういうふうに思っております。そういう意味で、これから、新しい高校ですから、いろんな問題が出てくると思います。そのときに、県教委として全面的なバックアップを、人的な面、予算面も含めてしていただきたいと、そういうふうをお願いをいたしまして、私の質問とさせていただきます。

○委員長（西田三十五君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 イメージ的には、やっぱり半分ぐらいに抑えているとか、3分の1ぐらいに我慢してくださいとかという、そういうずれは必ずあると思うんですけど、先ほど矢野議員がお話がありました、団体競技なんか特にチームワーク、これは非常に、やろうと思えば、例えば12月補正でも組んででも、もっと合宿をたくさんやりたいということであれば、団体競技、特に有望な団体競技に限らず、可能性のあるものは聞き取りをしていただいて、6月補正にまた上積みしてでも、年明けてでも結構ですから、こういう合宿が組めるような、希望が持てるような予算措置をしてもらいたいと思うんです。

私はサッカーが大好きなんですけど、岡田監督もやはりサッカーの協会に言って、海外の他流試合とか、国内の試合とか、いっぱい申し込んで、結局、ああいうふうに、きのうの試合もそうですけれども、合宿を重点的にやっているんですよね。ですから、国体競技も、団体競技、特に合宿なんか、個人でもそうですけど、そういうニーズがあれば、ぜひ聞き取りをしていただいて、できるのであれば、12月補正でも上乗せできるような方向性をちょっと考えていただきたいと思います。それは要望です。

以上です。